

# 令和7年度 校内研究計画

平戸市立南部中学校

## 1 研究主題

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」

～安心して学びに向かう集団づくり～

## 2 主題設定の理由

社会の在り方が劇的に変わり、先行き不透明で予測困難な時代を迎えている。「令和の日本型学校教育」の姿として、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現が示されている。それぞれの学びを一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる。そのために、学びと実生活との関連を意識させるとともに指導と評価の一体化について研究を進めていく。また、安心して学ぶ集団作りが必要不可欠であり、班活動や構成的グループエンカウンターを通して支持的風土の醸成をめざすことが必要である。  
※教室という空間、授業という場が、温かく安心できるものであると、子供たちは生き生きと学びを進めることができます。(学びの習慣化メソッドR6. 3月より)

## 3 研究内容

### (1) 【主体的に学ぶ生徒の姿】・・・基礎学力の定着

#### ①家庭学習の充実

ア 生徒会と連携し有効な学習の仕方を知らせる。

#### ②わかる授業の実践

ア 実生活に結びついた教材の工夫

イ 指導と評価を一体化させる

ウ めあてとまとめの提示

### (2) 【対話的に学ぶ生徒の姿】・・・安心して学びに向かう集団づくり：支持的風土の醸成

#### ①班活動の充実

ア 認め合う集団づくり・構成的グループエンカウンター・SST

#### ②特別支援教育の充実

ア ユニバーサルデザインの構築

イ 生徒の実態把握（困り感）から背景要因を探る

### (3) 【深い学びの生徒の姿】・・・読解力の向上

#### ①視写活動：自分の言葉で書く活動

ア 週に1回視写活動を設定する。書くことへの抵抗をやわらげ、次段階として書くことで意味を読み取り、要約することをねらいとしていく。

#### ②朝読書活動の充実

ア 落ち着いた環境で朝読書をする

イ 学期に1回程度読み聞かせを行い、読解力を養う。

#### 4 研究組織

(1) 研究推進委員会

校長・教頭・研究主任・教務・学び部リーダー・安心部リーダーで組織し、研究の計画について検討し推進する。

(2) 全体研究会

全教職員で組織し、研究全体に関わる内容についての協議や共通理解の場とする。

(3) 学びに向かう集団づくり部 (学び部)

授業改善に向けて、評価と指導の一体化。わかる授業の実践。

○草野・岩田・川向・富田・佐々木

(4) 安心できる集団づくり部 (安心部)

班活動を中心とした授業改善。特別支援教育におけるユニバーサルデザインの環境づくり

○前野・坂野・吉住・井上・塚本・山野

特別支援班

○井上・吉住・山野

(5) 学年部会

QUの分析と共通理解

要支援生徒の実態把握と背景要因を探る

#### 5 年間計画と実施

4月	研究の方向性の確認 研究テーマの決定 研究組織	11月	研究授業 (塚本教諭)
5月	朝活動の提案 指導案・授業研究の在り方の提案 指導と評価の一体化 アンケート内容の検討	12月	研究の実践 第2回hyper-QU
6月	研究授業 (塚本教諭) 研究授業 (前野教諭) 第1回hyper-QU 班活動の在り方 構成的グループエンカウンター SST	1月	ICT研修会 2回目QU実施・分析
7月	研究授業 (佐々木教諭) ICT研修会 支援を要する生徒の実態調査	2月	市学力調査分析 研究のまとめ
8月	QU分析 全国・県学力調査結果分析	3月	次年度の研究の方向性
9月	研究授業 (草野教諭)		
10月	支援生徒の背景要因を探る		

6 その他 校内研修で実施する研究授業の指導案は略案とする。